

時間割コード	KZ2001	ナンバリング	KZ-MUL-211-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教育概論				
担当教員（ローマ字表記）	安 龍洙				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

日本語教育概論
---------

## 授業の概要/Course Overview

外国人学習者に対して日本語を教えるために必要な基礎知識を学ぶ。この授業では、日本語教育の概要、日本語学習者の特徴、日本語教師の役割について色々な角度から学び、日本語教育の基礎知識を身につけることを目標とする。
--

## キーワード/Keyword(s)

日本語教育、日本語教授法、日本語学習者、日本語教師、外国語としての日本語、異文化理解
--

## 到達目標/Learning Objectives

<p>①日本語教育の教育内容や教育方法について理解できる。</p> <p>②日本語学習者の実態と日本語教師の役割について理解できる。</p> <p>③日本語教育と関連分野との関係について理解できる。</p>
---

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<p>1.①オリエンテーション②日本語教育とは何か（ビデオの視聴）</p> <p>2.日本語教育と国語教育の比較</p> <p>3.母語の役割について</p> <p>4.①日本語教授法②「良い外国語教師」「良くない外国語教師」について（課題発表）</p> <p>5.日本語・日本語教育史</p> <p>6.社会言語学</p> <p>7.第二言語習得論</p> <p>8.日本語教育文法を考えるⅠ（課題発表）</p> <p>9.日本語教育文法を考えるⅡ（課題発表）</p> <p>10.日本語教育の音声</p> <p>11.日本語教育の語彙</p> <p>12.初級・中級・上級の指導内容</p> <p>13.日本語教育の評価法</p> <p>14.異文化コミュニケーション</p> <p>15.総括</p> <p>【授業外学習】</p> <p>①1～3、5～7、10～14は教科書を読んで授業に臨むこと。また、各テーマに関して自分の過去の外国語学経験と比較してからどこが似ていてどこが違うのか、考えてくること。</p> <p>②3は、自分が今まで受けた語学授業の中から「特に良かった外国語教師・授業」と「あまり良くなかった外国語教師・授業」について取り上</p>
---

げて発表する。レジュメを作成する際は、1) 学習した外国語、2) いつ、どこで（学校、塾、個人指導など）、誰に習ったか、3) 授業はどうだったか（授業内容、教え方、テストなど）、について具体的に書くこと。

③8～9は「外国人が日本語教師によくする100の質問」の中から各自に課題を与える。レジュメを作成する際は、具体的な用例を挙げながら、必要に応じて絵、写真などを適宜使用すること。

④授業で配布するプリントを使って復習すること。

#### 【アクティブ・ラーニング】

①1～3、5～7、10～14は講義形式の授業を行う。講師の話を一方向的に聴くのではなく、各テーマに関して、受講生の外国語学経験談を話してもらい、場合によってはディスカッションをしながら進める。

②3は自分が今まで受けた語学授業の中で「特に良かった外国語教師・授業」と「あまり良くなかった外国語教師・授業」について取り上げて、皆の前で発表し質疑応答を行う。

③8～9は「外国人が日本語教師によくする100の質問」から各自に課題を与え、中級レベルの日本語学習者に教えることを想定してレジュメをまとめて、皆の前で発表し質疑応答を行う。

④15は授業全体の振り返りを行うとともに、海外の協定校で日本語教育演習を履修した学生の発表を聴いて質疑応答を行う(都合により変更の可能性有)。

## 履修上の注意/Notes

①2/3以上の出席がない場合は不合格となる。②遅刻3回は欠席1回とみなす。③授業開始後30分以上の遅刻は欠席とみなす。

## 情報端末の活用

授業でPC等は使用しない。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 到達目標①②③を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。

A : 到達目標①②③を達成し、優れた学修成果を上げている。

B : 到達目標①②③の学修成果を概ね達成している。

C : 到達目標①②③の最低限の到達目標に届いている。

D : 到達目標①②③に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

1. 授業への貢献度20%
2. レポート80%
3. 16回目に期末試験を行わない。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	改訂新版日本語教授法
著者名	石田敏子
出版社	大修館書店
出版年	1995
ISBN	9784469221077
教材費	

備考	その他、必要な資料等を適宜配布する。
----	--------------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

--

### PBL科目

--

### 地域志向科目

--

### 使用言語

日本語のみ
-------

### 実務経験のある教員による授業科目

--

### 実践的教育から構成される授業科目

--

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ2002	ナンバリング	KZ-MUL-231-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化社会と日本語教育				
担当教員（ローマ字表記）	八若 壽美子, 青木 香代子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

多文化社会と日本語教育

## 授業の概要/Course Overview

多様化する日本語教育の現状を学習者に焦点を当てて紹介する。特に多文化社会となりつつある日本国内において、共生言語となる日本語をどのように捉え、どのような指導が求められるのか等、各現場における日本語指導や日本語学習支援のあり方を考える。

## キーワード/Keyword(s)

多文化社会 多文化社会 定住外国人 外国人児童生徒 継承語 日本語学習支援会 定住外国人 外国人児童生徒 継承語 日本語学習支援

## 到達目標/Learning Objectives

グローバル化に伴い多様化する日本語教育の現状が理解できる。  
各現場で求められる日本語指導・日本語学習支援の在り方を考えることができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

### 【授業内容】

- 第1回. シラバスによるガイダンス、日本語教育の現状 【八若】
- 第2回. 学習者を知る(ニーズ、レディネス) 【八若】
- 第3回. コースデザイン、シラバスデザイン 【八若】
- 第4回. 第二言語習得と日本語教育(第二言語習得の認知過程) 【八若】
- 第5回. 第二言語習得と日本語教育(教室の役割) 【八若】
- 第6回. 言語政策と言語教育 【八若】
- 第7回. 留学生に対する日本語教育、確認テスト【八若】
- 第8回. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育 【青木】
- 第9回. 地域社会における日本語教育（やさしい日本語） 【青木】
- 第10回. 年少者に対する日本語教育（成長・発達モデルの視点から） 【青木】
- 第11回. 年少者に対する日本語教育（教育の方法と現状）【青木】
- 第12回. 継承語としての日本語教育 【青木】
- 第13回. 文化間移動する子どもたちのことばと学び：輪読① 【青木】
- 第14回. 文化間移動する子どもたちのことばと学び：輪読② 【青木】
- 第15回. 発表、まとめ 【青木】

### 【アクティブ・ラーニング】

・第1回～7回は講義とともに、講義や予習資料から得た知識をもとにいくつかの課題について考え、ブレインストーミング、グループディスカッション(シンク・ペア・シェア、ラウンドロビン)を交えながら授業を進める。第7回に前半の授業で得た知識を確認するための「確認テス

ト)を行う。前半の内容に関するレポートを課す。

- ・第8回～12回では、各テーマについてのグループディスカッションを行う。
- ・第13回、14回は川上郁雄著『私も「移動する子ども」だった』を輪読し、担当箇所の概要を発表し、ディスカッションを行う。
- ・第15回は、授業期間中に行った地域の日本語教室見学について、クラスで発表し、レポートにまとめて提出する。
- ・全授業後にリフレクティブ・ジャーナルにより、振り返りを行う。

#### 【授業外活動】

- ・シラバスの計画を参照し、授業でとりあげる項目について教科書、参考書、配布資料に事前に目を通しておくこと
- ・次の授業の準備となる課題を出すので必ず課題をやってから授業に臨むこと
- ・確認テストは授業で取り上げた項目についての知識を問うものなので参考書・配布資料等をよく復習すること
- ・学内の留学生向け日本語授業見学や地域の日本語教室の見学を各自1回ずつ行う。

## 履修上の注意/Notes

- ・遅刻3回で欠席1回とする。2/3以上の出席がないものは不合格とする。
- ・学内の留学生向け日本語授業見学や地域の日本語教室の見学を各自1回ずつ行う。交通費等は自己負担とする。
- ・輪読する教科書『私も「移動する子ども」だった：異なる言語の間で育った子どもたちのライフストーリー』くろしお出版(1400円)を購入すること。
- ・オフィスアワー： 八若： 月曜日4講時 青木： 木曜日3講時

## 情報端末の活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 多文化社会における日本語教育の基本的な知識と考え方を十分に修得し、きわめて優れた学修成果を上げている。
- A : 多文化社会における日本語教育の基本的な知識と考え方を修得し、優れた学修成果を上げている。
- B : 多文化社会における日本語教育の基本的な知識と考え方を概ね修得し、学修成果を概ね達成している。
- C : 多文化社会における日本語教育の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、合格と認められる最低限の到達目標に届いている
- D : 多文化社会における日本語教育の基本的な知識と考え方が修得できておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

確認テスト20% レポート(20×2本)40%、発表20%、提出物10%、授業貢献度(リフレクティブ・ジャーナルを含む)10%  
16回目に期末試験を実施しない。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	私も「移動する子ども」だった：異なる言語の間で育った子どもたちのライフストーリー
著者名	川上郁雄 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2010
ISBN	9784874244746
教材費	1400

備考	授業時に資料等を配布する。
----	---------------

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	文化間移動をする子どもたちの学び：教育コミュニティの創造に向けて
著者名	齋藤ひろみ, 佐藤郡衛 編
出版社	ひつじ書房
出版年	2009
ISBN	9784894763432
教材費	2800

### 参考書2

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	9784893589255
教材費	1800

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	△

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

**実務経験のある教員による授業科目**

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ2003	ナンバリング	KZ-MUL-331-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火1	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	3年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教授法Ⅱ				
担当教員（ローマ字表記）	池田 庸子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

日本語教授法Ⅱ

## 授業の概要/Course Overview

学習者の多様なニーズに合わせた日本語教育が行えるよう、カリキュラムデザインの方法を学び、教科書の選定や生教材、視聴覚教材等、さまざまな教材の活用法を学ぶ。さらに後半では模擬授業を行い、より実践的な技術を身につける。

## キーワード/Keyword(s)

日本語教授法、カリキュラムデザイン、教材研究、模擬授業、模擬授業

## 到達目標/Learning Objectives

1. 教科書や教材についての知識を深め、適切な教科書・教材の選定や教材作成ができるようになる。
2. 日本語授業の教案を作成し、それをもとに模擬授業を行うことで実践的な技術を身につけることができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】授業のガイダンス  
【授業外学修】担当の教科書を分析しレジュメと発表準備を行う
- 第2回：【授業内容】カリキュラムデザインと教材分析発表  
【授業外学修】配布された資料を読んでおく
- 第3回：【授業内容】初級文法と動詞の活用  
【授業外学修】配布された資料を読んでおく
- 第4回：【授業内容】初級の指導（導入・ドリル）  
【授業外学修】配布された資料を読んでおく
- 第5回：【授業内容】初級の指導（文字・表記）  
【授業外学修】初級ドリルを作成し、発表の準備を行う
- 第6回：【授業内容】文法説明・ドリル（発表）  
【授業外学修】配布された資料を読んでおく
- 第7回：【授業内容】教案作成と授業観察  
【授業外学修】配布された資料を読んでおく
- 第8回：【授業内容】中・上級の指導（1）会話と聴解  
【授業外学修】担当箇所の文法を理解し、模擬授業用の第1教案を作成する
- 第9回：【授業内容】中・上級の指導（2）文法・文型、教案の検討  
【授業外学修】模擬授業に向けた教材作成と教案の修正を行う
- 第10回：【授業内容】中・上級の指導（3）読解  
【授業外学修】模擬授業の準備及び教材作成を行う。事前に教科書の説明を読んで理解しておく
- 第11回：【授業内容】模擬授業（1）



【授業外学修】模擬授業の準備及び教材作成を行う。事前に教科書の説明を読んで理解しておく  
第12回：【授業内容】模擬授業（2）  
【授業外学修】模擬授業の準備及び教材作成を行う。事前に教科書の説明を読んで理解しておく  
第13回：【授業内容】模擬授業（3）  
【授業外学修】模擬授業の準備及び教材作成を行う。事前に教科書の説明を読んで理解しておく  
第14回：【授業内容】模擬授業（4）  
【授業外学修】総括に向けてディスカッションテーマを考えておく  
第15回：【授業内容】総括

#### 【アクティブラーニング】

- ・全ての授業で、積極的な発言やディスカッションが求められる。
- ・教材分析では、教科書分析をクラスで発表する。
- ・ドリル作成では、自作ドリルを授業形式でデモンストレーションする。
- ・模擬授業では、導入、文法説明、ドリルの流れで模擬授業を行う。

## 履修上の注意/Notes

日本語教授法 I を履修済みであること。  
遅刻3回で1回の欠席とみなす。30分以上の遅刻は欠席とみなす。  
積極的な発言が期待される。  
2/3以上の出席がない場合は不合格となる。

## 情報端末の活用

授業では特に情報端末は使用しない。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+:到達目標の2点について極めて高レベルで達成されている。  
A:到達目標の2点について高レベル以上で達成されている。  
B:到達目標の2点についておおむね以上のレベルで達成されている。  
C:到達目標の2点について最低限のレベル以上で達成されている。  
D:到達目標の2点について達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

教科書分析：10%、ドリル・教材作成：10%、模擬授業30%、レポート30%、授業貢献度20%  
16回目に期末試験は実施しない。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	初級日本語「げんき」：an integrated course in elementary Japanese
著者名	坂野永理, 池田庸子, 大野裕, 品川恭子, 渡嘉敷恭子 [著]
出版社	The Japan Times
出版年	2011
ISBN	9784789014403
教材費	3500

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	初級日本語文法と教え方のポイント
著者名	市川 保子 著
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	
ISBN	4883193365
教材費	2000

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ2004	ナンバリング	KZ-MUL-331-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	4年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教授法演習				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

## 授業の概要/Course Overview

日本語授業の実際を体験的に学ぶことにより、教育能力の向上を図る。授業では、主に大学内で開講されている留学生のための日本語クラスの授業観察・参加を通して日本語教師として必要な知識・能力についての認識を深める。

また、担当教員の指導のもと、初級レベル～上級レベルの授業実習も行う。授業観察・実習演習・グループでの討論を通して理解を深める。

## キーワード/Keyword(s)

外国語としての日本語教育、日本語教授法、授業見学、教案、教壇実習

## 到達目標/Learning Objectives

1. 授業観察・授業参加を通して日本語教育に必要な知識・能力とは何か理解できる。
2. これまで学んだ知識と技能を基礎として、教案及び教材を作成し、実際に授業を行うことができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 授業についてのオリエンテーション

第2回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第3回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第4回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等  
(授業後レポート：見学した授業について報告を行う)

第5回 教案・教材作成  
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)

第6回 実習準備  
(学生授業シミュレーション)

第7回 教壇実習①  
(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)

第8回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第9回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第10回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等  
【8～10回の授業外学修】授業後レポート：見学した授業について報告を行う

第11回 教案・教材作成及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等  
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)

第12回 実習準備  
(学生授業シミュレーション)

第13回 教壇実習②

(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)

第14回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

(授業後レポート：見学した授業について報告を行う)

第15回 反省会とフィードバック

(グループディスカッション:ラウンドロビン：本授業を通じた振り返りを行う)

#### 【アクティブラーニング】

- ・授業全体として担当クラスでの教壇実習に向けてのPBL(Project Based Learning)として行う。
- ・「授業見学・参加」では、茨城大学日本語研修コースの授業を7コマに参加し、授業の流れや学習者等を観察し、日本語を教えるにあたっての基本的知識や姿勢を学び、授業見学記録にまとめ、教壇実習に備える。また、必要に応じて、会話練習の相手やディスカッションのメンバー等として授業に参加する。
- ・「教案・教材作成」及び「実習準備」では、指導教員の助言を得て、教案や教材を作成し、必要に応じて改善した上で、授業シミュレーションを行って教壇実習に臨む。
- ・教壇実習では実際に日本語研修コースで外国人留学生対象授業を2回行う。教壇実習の後には「振り返り」を行い、授業の改善方法について考える。

#### 【授業外学修】

- ・授業見学・参加の前には、見学授業の使用教材を予習し、指導項目等を確認して臨むこと。
- ・授業見学後には、授業の流れや学習者の様子、指導項目の説明の仕方や学生への指示等について、気づいたことや自分自身の授業に活かせる点を書き留め、授業見学記録として提出すること。
- ・教壇実習に向けて、使用教材だけでなく参考書等を用いて指導項目についての理解を深めておくこと。
- ・教壇実習に向けて、指導教員及び他の学生からの助言や提案を参考にし、教案・教材を作成すること。助言に基づき、改善に取り組むこと。
- ・教壇実習後は反省点をまとめ、改善に取り組むこと。
- ・授業見学記録や教材、教案等はポートフォリオとしてまとめておくこと。

## 履修上の注意/Notes

- ・2/3以上出席しない場合は、不合格とする。遅刻は認めない。
- ・「日本語教育プログラム」の選択科目の所要単位をすべて修得済みで、同科目以外の必修科目をすべて履修済みであること。

オフィスアワー：瀬尾（金3・共通教育棟1号館228）

## 情報端末の活用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを十分に修得し、さらに的確な授業を行うことができている。
- A：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを修得し、さらに的確な授業を行うことができている。
- B：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを概ね修得し、さらに授業を行うことができている。
- C：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを最低限の修得をしており、授業を行うことができている。
- D：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルが修得できておらず、授業を行うことができていない。

## 成績の評価方法/Grading

実践授業40%、レポート40%、授業貢献度20%

16回目に期末試験は行わない。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	初級日本語「げんき」：an integrated course in elementary Japanese
著者名	坂野永理, 池田庸子, 大野裕, 品川恭子, 渡嘉敷恭子 [著]
出版社	The Japan Times
出版年	2011
ISBN	9784789014403
教材費	3500

## 参考書/Reference Book(s)

### 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>
-----------------------

### PBL科目

<input type="radio"/>
-----------------------

### 地域志向科目

--

### 使用言語

日本語
-----

### 実務経験のある教員による授業科目

--

### 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ2005	ナンバリング	KZ-MUL-331-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	LP	対象年次	4年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教授法演習(海外)				
担当教員（ローマ字表記）	池田 庸子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

日本語教授法演習(海外)

## 授業の概要/Course Overview

海外で行われている日本語教育の実際を体験的に学ぶことにより、日本語教育に関する知識を深め、教育能力の向上を図る。海外協定校への留学中に、協定校の指導教員の指導のもとで、日本語クラスの授業見学、日本語学習者の会話パートナー、教材作成の補助、教壇実習等を行い、日本語教師として必要な知識・能力についての認識を深める。茨城大学では、留学前にオリエンテーション、帰国後に報告会を行う。

## キーワード/Keyword(s)

外国語としての日本語教育、日本語教授法、授業見学、教壇実習、海外協定校

## 到達目標/Learning Objectives

- ①授業観察・授業参加を通して日本語教育に必要な知識・能力とは何か理解できる。
- ②これまで学んだ知識と技能を基礎として、教案及び教材を作成し、授業を行うことができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1回 授業についてのオリエンテーション(茨城大学)
- 2回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
- 3回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
- 4回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
- 5回 教案・教材作成 (協定校)  
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)
- 6回 実習準備 (協定校)  
(学生授業シミュレーション)
- 7回 教壇実習① (協定校)  
(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)
- 8回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
- 9回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
- 10回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
- 11回 教案・教材作成及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)  
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)
- 12回 実習準備 (協定校)  
(学生授業シミュレーション)
- 13回 教壇実習② (協定校)  
(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)
- 14回 協定校での全体振り返り (協定校)



15回: 帰国後報告会・全体振り返り(茨城大学)

#### 【アクティブラーニング】

協定大学の受入れ教員と協議して以上のような活動を行うため、アクティブ・ラーニングの要素としてはピア・インストラクション、学生授業、サービスマーケティング、当日レポート方式等が含まれる。

#### 【授業外学修】

- ・授業見学・参加の前には、見学授業の使用教材を予習し、指導項目等を確認して臨むこと。
- ・授業見学後には、授業の流れや学習者の様子、指導項目の説明の仕方や学生への指示等について、気づいたことや自分自身の授業に活かせる点を書き留め、授業見学記録として提出すること。
- ・教壇実習に向けて、使用教材だけでなく参考書等を用いて指導項目についての理解を深めておくこと。
- ・教壇実習に向けて、指導教員及び他の学生からの助言や提案を参考にし、教案・教材を作成すること。助言に基づき、改善に取り組むこと。
- ・教壇実習後は反省点をまとめ、改善に取り組むこと。
- ・授業見学記録や教材、教案等はポートフォリオとしてまとめておくこと。
- ・受入大学の指導教員の指導の下、活動記録を作成する。

※①共同開講の合意のある協定校：

- ・インドネシア教育大学(インドネシア)、
- ・ウィスコンシン州立大学スペリオール校（米国）、
- ・アイダホ州立大学（米国）、
- ・仁済大学（韓国）、
- ・トゥラキット・バンディット大学（タイ）
- ・ソフィア大学（ブルガリア）
- ・レンヌ第1大学（フランス）
- ・マレーシア科学大学（マレーシア）

\*新規受け入れ協定校がある場合は、グローバル教育センターホームページで周知する。

※②協定校のカリキュラムとの関係があるため、上記の授業計画の順序等には変更がある場合もある。

## 履修上の注意/Notes

- ・「日本語教育プログラム」の選択科目の所要単位をすべて修得済みで、同科目以外の必修科目をすべて履修済みであること。
- ・共同開講の合意のある上記協定校への留学が決定していること
- ・履修登録は茨城大学で行う。
- ・受け入れ大学の事情により実習ができない場合もあるため、留学申し込み前にグローバル教育センター教員に相談して実習先を決めること。

オフィスアワー：池田（火3講時・共通教育棟1号館217）

安（水3講時・共通教育棟1号館215）

## 情報端末の活用

留学中はPC等の情報端末が必要となる。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを十分に修得し、さらに的確な授業を行うことができている。
- A：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを修得し、さらに的確な授業を行うことができている。
- B：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを概ね修得し、さらに授業を行うことができている。
- C：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを最低限の修得をしており、授業を行うことができている。
- D：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルが修得できておらず、授業を行うことができいない。

## 成績の評価方法/Grading

受入大学教員の活動評価40%、報告会発表20%、レポート(活動記録等を含む)40%  
16回目に期末試験を行わない。

## 教科書/Textbook(s)

備考	実習校、実習担当科目等によって異なるので、協定校の受入担当教員の指示に従う。
----	--

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	初級日本語文法と教え方のポイント
著者名	市川 保子 著
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	
ISBN	4883193365
教材費	2000

### 参考書2

書名	新・はじめての日本語教育1
著者名	高見沢/孟
出版社	アスク語学事業部
出版年	
ISBN	9784872175141
教材費	1900

### 参考書3

書名	新・はじめての日本語教育2
著者名	高見沢 孟 著
出版社	アスク語学事業部
出版年	
ISBN	9784872175158
教材費	1900

### 参考書4

書名	初級を教える人のための日本語文法ハンドブック
著者名	松岡 弘 監修
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	
ISBN	4883191559
教材費	2200

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

その他  
留学先の言語等を使用する場合もある。

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語教育プログラム」の選択科目の所要単位をすべて修得済みで、同科目以外の必修科目をすべて履修済みであること。</li> <li>・共同開講の合意のある上記協定校への留学が決定していること</li> </ul>
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ2051	ナンバリング	KZ-MUL-231-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	LP	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教授法 I				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

## 授業の概要/Course Overview

日本語を教えるために必要な、教授法、教材、評価法等に関する基礎知識を学び、その知識を活用する力を養う。多様な学習者に対する日本語教育実践への理解を深めるとともに、外国語としての日本語を教えることについて学ぶ。

## キーワード/Keyword(s)

言語教育、教授法、教材・教具、シラバスデザイン、コースデザイン

## 到達目標/Learning Objectives

1. 日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基礎知識を理解し、説明できる。
2. 日本語教育の多様性を理解し、学習者に応じた教育実践の在り方について考え、説明できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスによるガイダンス/教師の役割/日本語教育の目的とは
- 第2回 初級日本語学習者に向けた文法練習を考える①—授業の組み立て方/コミュニケーション練習  
参考図書『日本語教育への道しるべ』「第3章 文法の指導法（初級）」「第5章 4技能の指導法（初級）」
- 第3回 初級日本語学習者に向けてオンラインで日本語を教える①
- 第4回 活動のふりかえり/初級日本語学習者に向けた文法練習を考える②—意味のあるコミュニケーション活動/フィードバックの方法  
参考図書『ヒューマンな英語授業がしたい!—かかわる、つながるコミュニケーション活動をデザインする』  
「第1章 コミュニケーション活動はなぜ英語授業の核となるのか」
- 第5回 初級日本語学習者に向けてオンラインで日本語を教える②
- 第6回 活動のふりかえり
- 第7回 文化を批判的に教える  
参考図書『文化、ことば、教育—日本語/日本の教育の「標準」を越えて』久保田竜子「日本文化を批判的に教える」
- 第8回 文化を批判的に教える活動をデザインする
- 第9回 日本語を学ぶ学習者に対して文化を教える
- 第10回 活動のふりかえり/ピア・ラーニング/ピア・レスポンス  
参考図書『ピア・ラーニング入門—創造的な学びのデザインのために』「第1章 協働とは」
- 第11回 ニーズ・レディネス調査/学習者に対するニーズ調査
- 第12回 日本語中級学習者のための授業デザイン  
参考図書『日本語教育への道しるべ』「第4章 文法の指導法（中級）」と「第6章 4技能の指導法（中級）」
- 第13回 中級のための授業を作成
- 第14回 中級日本語学習者に向けて日本語を教える
- 第15回 活動のふりかえり/今後も成長し続ける教師になるために

#### 【アクティブラーニング】

- (1) 各回の授業では、講義の内容について考えたことをペアやグループで話し合う。
- (2) 協定校で日本語を学ぶ学生及び茨城大学で日本語を学ぶ交換留学生に対して日本語を教える模擬授業を行う。

授業では3つの課題を課す。

課題①では、協定校で日本語を学ぶ学生（初級）に対して、ウェブ会議システムZOOMを用いてオンラインによる日本語授業（主にコミュニケーション活動）を行う。

課題②では、協定校で日本語を学ぶ学生（上級）に対して、ウェブ会議システムZOOMを日本文化を批判的に教える。

課題③では、茨城大学で学ぶ交換留学生（中級）に対して、ニーズ・レディネス調査を行い、かれらのニーズに即した活動を設計し、それを実践する。

これらの活動をふりかえり、学んだこと、工夫したこと、授業で学んだ知識をいかしたことをまとめ、レポートという形で報告する。そして、執筆の過程では、ピアレスポンス活動を行い、レポートを推敲する。

#### 【授業外学修】

- (1) 教科書及び配布されるプリントをもとに授業の前に予習するとともに、スライドや授業ノートをもとに授業後に復習を行う。
- (2) シラバスに記載されている参考書を図書館などで入手し、関係する箇所を読んでおく。
- (3) 上記に述べた3つの課題を遂行するにあたり、教室外でグループで教案・教材を作成する等の準備を行う。
- (4) 指導教員及び他の学生からの助言や提案を参考にし、教案・教材を作成する。助言に基づき、改善に取り組む。
- (5) 活動で作成した教材はポートフォリオとしてまとめる。

## 履修上の注意/Notes

- ・ 授業・グループワークへの積極的な参加を求めます。
- ・ 2/3以上の出席がない場合は不合格とします。
- ・ 遅刻または早退3回で1回の欠席とみなします。
- ・ 30分以上の遅刻または早退は欠席とします。
- ・ 16回目に期末試験を行いません。

## 情報端末の活用

各授業の前には、資料などをDream Campusからダウンロードし、毎回の授業時にはPCを持参する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

1. 授業への積極性・貢献度 10%
2. 課題① 30%
3. 課題② 30%
4. 課題③ 30%

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	9784893589279
教材費	1800

### 参考書2

書名	日本語教育学を学ぶ人のために
著者名	青木直子, 尾崎明人, 土岐哲編
出版社	世界思想社
出版年	2001
ISBN	978-4790708919
教材費	

### 参考書3

書名	日本語教育 学のデザイン：その地と図を描く
著者名	神吉宇一 編著
出版社	凡人社
出版年	2015
ISBN	978-4893588937
教材費	2600

### 参考書4

書名	ヒューマンな英語授業がしたい! : かかわる、つながるコミュニケーション活動をデザインする
著者名	三浦孝, 中嶋洋一, 池岡慎 著
出版社	研究社
出版年	2006
ISBN	978-4327410667
教材費	2800

### 参考書5

書名	文化、ことば、教育：日本語/日本の教育の「標準」を越えて
著者名	佐藤慎司, ドーア根理子編著
出版社	明石書店
出版年	2008
ISBN	978-4750328485

教材費	
-----	--

参考書6

書名	ピア・ラーニング入門：創造的な学びのデザインのために
著者名	池田玲子, 館岡洋子著
出版社	ひつじ書房
出版年	2007
ISBN	978-4894762886
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>
-----------------------

PBL科目

<input type="radio"/>
-----------------------

地域志向科目

--

使用言語

日本語
-----

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KZ2052	ナンバリング	KZ-MUL-331-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	3年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教授法演習				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

## 授業の概要/Course Overview

日本語授業の実際を体験的に学ぶことにより、教育能力の向上を図る。授業では、主に大学内で開講されている留学生のための日本語クラスの授業観察・参加を通して日本語教師として必要な知識・能力についての認識を深める。また、担当教員の指導のもと、初級レベルと中級レベルの授業実習も行う。授業観察・実習演習・グループでの討論を通して理解を深める。

## キーワード/Keyword(s)

外国語としての日本語教育、日本語教授法、授業見学、教案、教壇実習

## 到達目標/Learning Objectives

1. 授業観察・授業参加を通して日本語教育に必要な知識・能力とは何か理解できる。
2. これまで学んだ知識と技能を基礎として、教案及び教材を作成し、実際に授業を行うことができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 授業についてのオリエンテーション
- 第2回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等
- 第3回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等
- 第4回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等  
(授業後レポート：見学した授業について報告を行う)
- 第5回 教案・教材作成  
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)
- 第6回 実習準備  
(学生授業シミュレーション)
- 第7回 教壇実習①  
(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)
- 第8回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等
- 第9回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等
- 第10回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等  
【8～10回の授業外学修：授業後レポート、見学した授業について報告を行う
- 第11回 教案・教材作成及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等  
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)
- 第12回 実習準備  
(学生授業シミュレーション)
- 第13回 教壇実習②

(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)

第14回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

(授業後レポート：見学した授業について報告を行う)

第15回 反省会とフィードバック

(グループディスカッション：ラウンドロビン：本授業を通じた振り返りを行う)

#### 【アクティブラーニング】

- ・授業全体として担当クラスでの教壇実習にむけてのPBL (Project Based Learning) として行う。
- ・「授業見学・参加」では、茨城大学日本語研修コースの授業を7コマ参加し、授業の流れや学習等を観察し、日本語を教えるにあたっての基本的知識や姿勢を学び、授業見学記録にまとめ、教壇実習に備える。また、必要に応じて、会話練習の相手やディスカッションのメンバー等として授業に参加する。
- ・「教案・教材作成」及び「実習準備」では、指導教員の助言を得て、教案や教材を作成し、必要に応じて改善したうえで、授業シミュレーションを行って教壇実習に臨む。
- ・教壇実習では実際に日本語研修コースで外国人留学生対象授業を2回行う。教壇実習の後には「振り返り」を行い、授業改善の方法について考える。

#### 【授業外学修】

- ・授業見学・参加の前には、見学授業の使用教材を予習し、指導項目等を確認して臨むこと。
- ・授業見学後には、授業の流れや学習者の様子、指導項目の説明の仕方や学生への指示等について、気づいたことや自分自身の授業に活かせる点を書き留め、授業見学記録として提出すること。
- ・教壇実習に向けて、使用教材だけでなく参考書等を用いて指導項目についての理解を深めておくこと。
- ・教壇実習に向けて、指導教員及び他の学生からの助言や提案を参考にし、教案・教材を作成すること。助言に基づき、改善に取り組むこと。
- ・教壇実習後は反省点をまとめ、改善に取り組むこと。
- ・授業見学記録や教材、教案等はポートフォリオとしてまとめておくこと。

## 履修上の注意/Notes

- ・2/3以上出席しない場合は、不合格とする。遅刻は認めない。
- ・「日本語教育プログラム」の選択科目の所用単位を全て習得済みで、同科目以外の必修科目を全て履修済みであること。

## 情報端末の活用

実習内容によって、PCを使用することがある。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを十分に修得し、さらに的確な授業を行うことができている。
- A : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを修得し、さらに的確な授業を行うことができている。
- B : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを概ね修得し、さらに授業を行うことができている。
- C : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを最低限の修得をしており、授業を行うことができている。
- D : 日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルが修得できておらず、授業を行うことができいない。

## 成績の評価方法/Grading

実践授業40%、レポート40%、授業貢献度20%  
16回目に期末試験は行わない。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	初級日本語「げんき」 : an integrated course in elementary Japanese
著者名	坂野永理, 池田庸子, 大野裕, 品川恭子, 渡嘉敷恭子 [著]
出版社	The Japan Times
出版年	2011
ISBN	9784789014403
教材費	3500

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ2053	ナンバリング	KZ-MUL-331-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	3年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教授法演習(海外)				
担当教員（ローマ字表記）	八若 壽美子				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

日本語教授法演習(海外)

## 授業の概要/Course Overview

海外で行われている日本語教育の実際を体験的に学ぶことにより、日本語教育に関する知識を深め、教育能力の向上を図る。海外協定校への留学中に、協定校の指導教員の指導のもとで、日本語クラスの授業見学、日本語学習者の会話パートナー、教材作成の補助、教壇実習等を行い、日本語教師として必要な知識・能力についての認識を深める。茨城大学では、留学前にオリエンテーション、帰国後に報告会を行う。

## キーワード/Keyword(s)

外国語としての日本語教育、日本語教授法、授業見学、教壇実習、海外協定校

## 到達目標/Learning Objectives

- ①授業観察・授業参加を通して日本語教育に必要な知識・能力とは何か理解できる。
- ②これまで学んだ知識と技能を基礎として、教案及び教材を作成し、授業を行うことができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1回 授業についてのオリエンテーション(茨城大学)
- 2回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等（協定校）
- 3回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等（協定校）
- 4回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等（協定校）
- 5回 教案・教材作成（協定校）  
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)
- 6回 実習準備（協定校）  
(学生授業シミュレーション)
- 7回 教壇実習①（協定校）  
(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)
- 8回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等（協定校）
- 9回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等（協定校）
- 10回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等（協定校）
- 11回 教案・教材作成及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等（協定校）  
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)
- 12回 実習準備（協定校）  
(学生授業シミュレーション)
- 13回 教壇実習②（協定校）  
(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)
- 14回 協定校での全体振り返り（協定校）

15回: 帰国後報告会・全体振り返り(茨城大学)

#### 【アクティブラーニング】

協定大学の受入れ教員と協議して以上のような活動を行うため、アクティブ・ラーニングの要素としてはピア・インストラクション、学生授業、サービスマーケティング、当日レポート方式等が含まれる。

#### 【授業外学修】

- ・授業見学・参加の前には、見学授業の使用教材を予習し、指導項目等を確認して臨むこと。
- ・授業見学後には、授業の流れや学習者の様子、指導項目の説明の仕方や学生への指示等について、気づいたことや自分自身の授業に活かせる点を書き留め、授業見学記録として提出すること。
- ・教壇実習に向けて、使用教材だけでなく参考書等を用いて指導項目についての理解を深めておくこと。
- ・教壇実習に向けて、指導教員及び他の学生からの助言や提案を参考にし、教案・教材を作成すること。助言に基づき、改善に取り組むこと。
- ・教壇実習後は反省点をまとめ、改善に取り組むこと。
- ・授業見学記録や教材、教案等はポートフォリオとしてまとめておくこと。
- ・受入大学の指導教員の指導の下、活動記録を作成する。

※①共同開講の合意のある協定校：

- ・インドネシア教育大学(インドネシア)
- ・ウィスコンシン州立大学スペリオール校(米国)
- ・アイダホ州立大学(米国)
- ・仁済大学(韓国)
- ・トゥラキット・バンディット大学(タイ)
- ・ソフィア大学(ブルガリア)
- ・レンヌ第1大学(フランス)
- ・マレーシア科学大学(マレーシア)

\*新規受け入れ協定校がある場合は、グローバル教育センターホームページで周知する。

※②協定校のカリキュラムとの関係があるため、上記の授業計画の順序等には変更がある場合もある。

## 履修上の注意/Notes

- ・「日本語教育プログラム」の選択科目の所要単位をすべて修得済みで、同科目以外の必修科目をすべて履修済みであること。
- ・共同開講の合意のある上記協定校への留学が決定していること
- ・履修登録は茨城大学で行う。
- ・受け入れ大学の事情により実習ができない場合もあるため、留学申し込み前にグローバル教育センター教員に相談して実習先を決めること。

オフィスアワー：八若（月4講時・共通教育棟1号館229） 安（水3講時・共通教育棟1号館215）

## 情報端末の活用

留学中はPC等の情報端末が必要となる

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A +：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを十分に修得し、さらに的確な授業を行うことができている。
- A：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを修得し、さらに的確な授業を行うことができている。
- B：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを概ね修得し、さらに授業を行うことができている。
- C：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを最低限の修得をしており、授業を行うことができている。
- D：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルが修得できておらず、授業を行うことができいない。

## 成績の評価方法/Grading

受入大学教員の活動評価40%、報告会発表20%、レポート(活動記録等を含む)40%  
16回目に期末試験を行わない。

## 教科書/Textbook(s)

備考	実習校、実習担当科目等によって異なるので、協定校の受入担当教員の指示に従う。
----	--

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	初級日本語文法と教え方のポイント
著者名	市川 保子 著
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	
ISBN	4883193365
教材費	2000

### 参考書2

書名	新・はじめての日本語教育1
著者名	高見沢/孟
出版社	アスク語学事業部
出版年	
ISBN	9784872175141
教材費	1900

### 参考書3

書名	新・はじめての日本語教育2
著者名	高見沢 孟 著
出版社	アスク語学事業部
出版年	
ISBN	9784872175158
教材費	1900

### 参考書4

書名	初級を教える人のための日本語文法ハンドブック
著者名	松岡 弘 監修
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	
ISBN	4883191559
教材費	2200

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

### PBL科目

### 地域志向科目

### 使用言語

その他  
留学先の言語等を使用する場合もある。

### 実務経験のある教員による授業科目

### 実践的教育から構成される授業科目

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--